

Ⅳ 市民会館・公民館の状況

1 市民会館・公民館概要

会館は、基本的には多様な文化諸活動に対応しつつ（市民会館）教育機関としての公民館本館の機能を果たしていく施設として、昭和52年6月に開館した。

敷地面積 4,937.07 m^2 建設延床面積 6,771.253 m^2

鉄筋コンクリート造り、地下1階、地上3階の構造

その施設、設備、職員、機能を通じ

- (1) 市民の出あい場（ひろば）
- (2) 集団活動のよりどころ
- (3) 人間（市民）としての向上の場（市民の大学）
- (4) 芸術、文化、娯楽の鑑賞と創造（劇場、音楽堂）

の役割を果たしている。

また、武蔵野台地区、熊川地区に、社会教育活動の拠点として、地域のさまざまな文化創造の場として公民館分館・松林会館・白梅会館がある。

- (1) 松林会館（武蔵野台地区）が、昭和54年5月に開館した。

敷地面積 1,104.98 m^2 建設延床面積 564.3 m^2

鉄筋コンクリート造り、2階の構造

- (2) 白梅会館（熊川地区）が、昭和55年5月に開館した。

敷地面積 2,158.03 m^2 建設延床面積 570.59 m^2

鉄筋コンクリート造り、2階の構造

2 市民会館・公民館利用状況

利用件数

施設名			月別			4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3			合 計		
			区分			有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総			
施設名			料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数			
市 民 会 館	ホー ル	大 ホー ル	30	0	30	33	0	33	37	0	37	36	0	36	18	0	18	38	0	38	31	0	31	51	0	51	27	0	27	18	0	18	30	0	30	33	0	33	382	0	382			
		小 ホー ル	26	0	26	19	0	19	21	0	21	37	0	37	16	0	16	28	0	28	16	0	16	34	0	34	21	0	21	10	0	10	22	0	22	26	0	26	276	0	276			
		小 計	56	0	56	52	0	52	58	0	58	73	0	73	34	0	34	66	0	66	47	0	47	85	0	85	48	0	48	28	0	28	52	0	52	59	0	59	658	0	658			
	集 会 室 等	リハーサル室	14	0	14	14	0	14	4	2	6	17	0	17	6	0	6	18	7	25	6	8	14	4	19	23	6	0	6	11	5	16	9	2	11	11	7	18	120	48	168			
		第 1 集会室	15	18	33	13	24	37	14	30	44	6	30	36	7	14	21	8	28	36	1	35	36	4	32	36	4	28	32	4	26	30	5	30	35	3	29	32	84	324	408			
		第 2 集会室	22	26	48	14	28	42	15	33	48	7	33	40	4	20	24	5	38	43	0	39	39	2	38	40	6	30	36	3	33	36	3	35	38	2	39	41	83	392	475			
		第 3 集会室	20	33	53	18	36	54	8	28	36	7	43	50	4	33	37	10	36	46	5	45	50	2	44	46	1	34	35	4	33	37	7	33	40	6	39	45	92	434	526			
		第 4 集会室	20	20	40	11	23	34	9	20	29	13	19	32	3	15	18	11	26	37	20	31	51	6	39	45	5	30	35	3	25	28	12	17	29	11	26	37	124	293	417			
		第 5 集会室	31	15	46	19	18	37	19	16	35	25	16	41	5	15	20	13	14	27	18	25	43	6	28	34	8	20	28	3	25	28	7	28	35	13	30	43	167	253	420			
		第 6 集会室	18	13	31	7	20	27	12	24	36	5	24	29	0	12	12	8	30	38	7	33	40	2	30	32	3	22	25	3	19	22	8	20	28	5	28	33	78	272	350			
		第 7 集会室	3	11	14	6	19	25	12	23	35	3	25	28	0	12	12	6	30	36	5	31	36	0	27	27	1	20	21	0	14	14	8	18	26	2	26	28	46	253	299			
		第 8 集会室	14	3	17	24	7	31	27	6	33	13	8	21	2	6	8	7	4	11	14	10	24	6	21	27	9	6	15	2	11	13	8	10	18	1	10	11	127	99	226			
		展 示 室	0	0	0	0	0	0	0	16	16	0	7	7	3	21	24	0	0	0	5	12	17	0	9	9	0	0	0	0	8	8	0	0	0	9	0	9	17	73	90			
		計		213	139	352	178	175	353	178	198	376	169	205	374	68	148	216	152	213	365	128	269	397	117	287	404	91	190	281	61	199	260	119	193	312	122	234	356	1,596	2,450	4,046		
公 民 館	調 理 室	0	16	16	0	21	21	0	19	19	0	17	17	0	13	13	0	14	14	0	26	26	3	21	24	1	8	9	0	9	9	1	13	14	3	17	20	8	194	202				
	美 術 室	0	44	44	0	28	28	0	34	34	0	28	28	0	33	33	0	36	36	0	47	47	0	14	14	0	26	26	0	0	0	0	17	17	0	21	21	0	328	328				
	音 楽 室	0	29	29	0	27	27	0	25	25	0	27	27	4	28	32	2	24	26	0	33	33	0	31	31	0	19	19	1	26	27	0	27	27	0	30	30	7	326	333				
	視 聴 覚 室	0	22	22	0	31	31	0	29	29	0	24	24	2	24	26	0	21	21	5	16	21	0	26	26	0	11	11	0	13	13	2	20	22	0	26	26	9	263	272				
	児 童 室	14	11	25	14	18	32	10	22	32	16	17	33	2	10	12	0	21	21	0	20	20	0	25	25	2	18	20	1	18	19	0	19	19	1	17	18	60	216	276				
	計	14	122	136	14	125	139	10	129	139	16	113	129	8	108	116	2	116	118	5	142	147	3	117	120	3	82	85	2	66	68	3	96	99	4	111	115	84	1,327	1,411				
合 計			227	261	488	192	300	492	188	327	515	185	318	503	76	256	332	154	329	483	133	411	544	120	404	524	94	272	366	63	265	328	122	289	411	126	345	471	1,680	3,777	5,457			

松 林 会 館 利 用 状 況

		56年 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	57年 1 月	2 月	3 月	合 計
主 催 事 業	件 数	14	17	24	40	28	30	46	32	30	27	41	47	376
	人 員	506	558	659	845	651	699	3,843	642	575	602	836	772	11,188
住 民 の 社会教育活動	件 数	40	47	43	59	26	44	65	52	43	41	45	59	564
	人 員	491	717	599	1,129	574	655	800	831	642	531	916	809	8,694
公 共 (的) 団 体	件 数	1	6	5	3	10	3	4	3	3	5	2	6	51
	人 員	10	105	90	100	231	90	60	19	22	112	10	115	964
政治・宗教団体	件 数	4	4	4	4	2	3	2	4	3	4	5	8	47
	人 員	165	165	180	180	90	135	100	200	150	200	240	360	2,165
企 業	件 数	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	人 員	380	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	380
そ の 他	件 数	5	9	9	12	6	18	11	24	12	10	12	12	140
	人 員	92	152	199	252	104	432	346	563	179	223	324	220	3,086
計	件 数	71	83	85	118	72	98	128	115	91	87	105	132	1,185
	人 員	1,644	1,697	1,727	2,506	1,650	2,011	5,149	2,255	1,568	1,668	2,326	2,276	26,477

白 梅 会 館 利 用 状 況

		56年 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	57年 1 月	2 月	3 月	合 計
主 催 事 業	件数	8	6	7	20	14	15	23	26	17	13	24	27	200
	人員	144	64	283	347	258	207	358	426	340	176	389	336	3,328
住 民 の 社会教育活動	件数	57	67	68	62	47	69	86	84	73	54	87	86	840
	人員	913	1,036	1,182	1,109	1,053	1,387	1,714	1,565	1,249	788	1,459	1,303	14,758
公 共 (的) 団 体	件数	1	1	0	2	0	1	0	1	0	0	0	2	8
	人員	15	10	0	90	0	90	0	10	0	0	0	40	255
政治・宗教団体	件数	1	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	4
	人員	40	0	0	0	0	0	20	60	0	0	0	0	120
企 業	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	66	66
そ の 他	件数	1	0	2	0	0	2	1	1	1	1	1	0	10
	人員	60	0	70	0	0	97	50	11	10	10	60	0	368
計	件数	68	74	77	84	61	87	111	114	91	68	112	117	1,064
	人員	1,172	1,110	1,535	1,546	1,311	1,781	2,142	2,072	1,599	974	1,908	1,745	18,895

3 公民館運営審議会

公民館運営審議会制度は、社会教育法に基づいて設置された、当市は、昭和52年以来、任期2年、定数10名以内で構成されています。本委員は社会教育委員を兼任していましたが、本年10月から新たな委員構成になりました。審議会は、館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議する諮問機関である。

本年度の審議会の会議内容は次のとおりである。

昭和56年4月24日(金)午後1時30分 市民体育館

- ① 新委員辞令交付
- ② 副委員長の選任について
- ③ 会館管理運営計画について

昭和56年6月30日(火)午後1時30分 東村山市公民館

- ① 第1回都公連委員部会

昭和56年10月28日(水)午後7時 公民館

- ① 新委員辞令交付
- ② 委員長、副委員長の選任について
- ③ 公民館主催事業について

昭和56年11月21日(土)午後2時 公民館

- ① 昭和57年度公民館事業について
- ② 第20回 東京都公民館大会について

昭和57年1月26日(火)午後1時30分 立川市高松公民館

- ① 第4回都公連委員部会

昭和57年2月7日(日)午前9時 三鷹市公会堂

- ① 第20回 東京都公民館大会

昭和57年2月13日(土)午後2時 福祉会館

- ① 公民館の幼児教室(公民館保育室)の現状について
- ② 公民館のつどいについて
- ③ 公民館主催事業について

昭和57年3月27日(土)午後2時 公民館

- ① 昭和57年度会館管理運営計画について
- ② 公民館長の任命に関する意見聴取について

4 奨励・援助

(1) 人的援助

各団体、グループ、サークル、個人の相談に応じ、必要な助言、指導、援助等に職員、講師、助言者等の派遣紹介を行った。年間延回数221回

なお、公民館本館では、夜間における社会教育の活動が昼間より非常に多いことから、これらの市民活動の相談にのり、必要な援助をするため、館職員が1名残る体制をとっている。

(午後5時から10時まで)

(2) 教材・教具等の利用

社 会 教 育 備 品 貸 出 件 数

月		56年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	57年 1	2	3	計
利 用 団 体		5	9	11	9	15	8	4	4	4	5	7	7	88
内 訳	16 ミリ 映 写 機	4	3	3	7	5	4	4	1	2		4	4	41
	8 ミリ 映 写 機	2				3	1				4	1		11
	8 ミリ カ メ ラ					1				1		1		3
	スライド 映 写 機		1	1	1	1							1	5
	O H P			2		2	2							6
	テープレコーダー			1			1		1					3
	暗 幕		1	4	1	2	3					2	1	14
	ス ク リ ー ン	2	2	5	4	6	1	1				2	3	26
	16ミリ フィルム	2				4								6
	シネスコレンズ				1	1	1							3
	コンバージョンレンズ												1	1
	空 リ ー ル					1						1	1	3
	ス ポ ッ ト ラ イ ト			2		2	1		1	4				10
	指揮者用譜面台								1					1
	ホ ル ン										2			2
	ク ラ リ ネ ッ ト										2			2
	ピ ッ コ ロ										1			1
計		8	9	18	14	28	14	5	4	7	9	11	11	138

立川社会教育会館 フィルム配送サービス取扱い

月		56年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	57年 1	2	3	計	月平均
件 数		2	2	3	6	6	6	7	4	6	3	7	10	62	5.2件
本 数		3	6	4	14	13	11	19	7	11	4	12	13	127	10.6本

(3) 事務援助

印刷事務等

(4) 会場借上

大ホール 2回 (福生音楽愛好者連絡会、福生吹奏楽愛好会)

小ホール 2回 (福生吹奏楽愛好会、市民コーラス)

5 公民館主催事業

(1) 幼 児

幼児教室

目標：幼児が仲間の中で遊ぶ能力を身につけ、社会性の基礎を養うことを目標とする。

主題：「異年齢集団への適応と遊びのちから」 ー問題解決と創造への知力の発達ー

内容：幼児自身が集団の中で自立的行為ができるための情緒安定(保育者との信頼)をもとに、幼児間の密度の高い仲間関係の形成から能動的な共同行為ができるよう指導する。

方法：(1) 基礎的な生活習慣を身につける。

(2) 遊び道具を用いた自由(ひとり)遊びのちからをつける。

(3) 紙芝居・創作による、つくること等への関心のふくらみ。

(4) 集団遊びによる、集団の中での行為能力の向上。

(5) 外遊びを混え、運動能力の向上。

以上の内容・方法等をもって実施した。

期 間 昭和56年4月より、以下各コース実施回数の期間まで。

会 場 公民館、松林分館、白梅分館

参加者

	コース名	定員	回数	延参加数
1	あじさいコース	15人	20回	249人
2	あゆみコース	15人	20回	250人
3	つくしコース	15人	15回	186人
4	家庭教育学級コース	15人	10回	125人
5	ふれんどコース	15人	20回	250人
6	ひだまりコース	15人	20回	249人
7	てづくりAコース	10人	10回	83人
8	てづくりBコース	10人	10回	82人
9	なかよしコース	15人	20回	235人
10	つみきコース	15人	20回	249人

	コース名	定員	回数	延参加数
11	こおらすコース	10人	20回	176人
計	11コース	150人	185回	2,134人

幼児教育研究会（保育懇談会）

幼児教室において、幼児が順調に成長・発達をとげていくためには、親が保護者として、具体的な役割を果たすことが不可欠であり、また、家庭や地区の日常性との結びつきも欠かせません。こうした点で、母親と保育者と館職員の三者によって、幼児の“成長・発達”や、良き環境づくり、及びその人的構成要素となる三者の各々の主体と役割を理解し、その連けいを深めるために、以下のとおり研究の機会として実施した。

期 間 昭和56年4月から年間（月例 全12回）

会 場 公民館、松林分館、白梅分館

参加者 20人×12回＝240人

幼児教育研究会（保育者会議）

幼児が異年齢集団での遊びを通じて発達することにむけ、①幼児の集団適応と発達の分析から指導方針の研究、②保育室内の条件、③育児に関する親の相談についての対応など、親と子が、ともに成長し得る態勢を整えるために、保育者と館職員による研究の機会として実施した。

期 間 昭和56年4月から年間（月例 全12回）

会 場 公民館

参加者 8人×12回＝96人

(2) 少 年

たんけん教室

小学4年生から中学3年生までを対象とし、福生市内や近隣の自然・文化財の様子を見て歩き、私たちの日常生活と自然や文化財との関係を考える機会とする。

期 間 昭和56年4月25日（土）～昭和57年3月28日（日） 全19回

参加者 30人 延人数450人

月 日	テ ー マ	内 容
4. 25	オリエンテーション	自己紹介とたんけん教室の説明など
5. 16	市内河原たんけん	河原の中で地図と磁石の使い方を練習する
6. 7	草花たんけんⅠ	草花丘陵の野鳥を探して歩いてみよう
7. 5	” Ⅱ	” の文化財を見て歩く

月 日	テ ー マ	内 容
8. 25	たんけんキャンプ	キャンプ生活を通して自然の変化を体験する
8. 26	たんけんキャンプ	キャンプ生活を通して自然の変化を体験する
9. 13	滝山たんけんⅠ	滝山丘陵にあるアケビを食べてみる
10. 17	奥多摩たんけん打合せ	戸倉三山ハイキングの打合せ
10. 25	Ⅱ	Ⅱ の二次林の観察
11. 29	滝山たんけんⅡ	滝山丘陵のむかごを食べてみよう
12. 25	クリスマスパーティー	スライド写真を見たり登山証明書の発行をする
1. 31	奥多摩たんけん打合せ	笹尾根ハイキングの打合せ
2. 1	Ⅱ	Ⅱ の自然を福生の自然と比較する
3. 3	ファミリーハイキング打合せ	子どもたちによる候補地選定
3. 21	下見調査	候補地の実施踏査
3. 24	資料作り	保護者向けのパンフレット作成
3. 25	〃	〃
3. 26	〃	〃
3. 28	ファミリーハイキング	大塚山から日の出山ハイキング

夏休み自然教室

小学4年生から中学3年生までを対象とし、現在の福生の自然の一部（野鳥・植物・昆虫）を観察し、自然の持つはたらきを理解する機会とする。

期 間 昭和56年7月27日（月）～9月13日（日） 全13回

参加者 21人 延人数168人

月 日	テ ー マ	内 容	場 所
7. 27	オリエンテーション	自己紹介・教室の説明・班分け等	公 民 館
8. 4	河原の昆虫センサス1	限られた範囲の中の昆虫の生息調査	福生団地下
8. 12	Ⅱ	〃	南 公 園
8. 13	河原の植物センサス1	限られた範囲の中の植物の生息調査	〃
8. 14	Ⅱ	〃	福生団地下
8. 17	Ⅲ	〃	柳 山 公 園
8. 19	24時間体験キャンプ	テントの張り方や野外生活を経験する	〃
8. 20	〃	〃	〃
8. 24	河原の野鳥センサス	南公園周辺の野鳥の観察・調査	南 公 園

月 日	テ ー マ	内 容	場 所
8. 27	河原の昆虫センサス 3	限られた範囲の中の昆虫の生息調査	柳 山 公 園
8. 28	資料作り - 1 -	市内の河原に生息する植物・昆虫・野鳥の様子を、調査した結果をもとに一枚の模造紙に書いてみる。	公 民 館
8. 29	" - 2 -		"
9. 13	" - 3 -		"

夏休みマンガ教室

小学4年生以上を対象とし、今日のマンガのあり方、日常生活の中で占める割合・意味等を、実際にマンガを描くことを通して考える機会とした。

期 間 昭和56年8月3日(月)～8月6日(木) 全3回

会 場 公民館

参加者 17人 延人数50人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
8. 3	マンガの説明	今日のマンガの全体的な説明	原島 卓三氏
8. 5	マンガの描き方 1	具体的なマンガの描き方・色の塗り方・用具の使い方などの説明	"
8. 6	" 2		"

夏休み子ども教室・びんぼう工作

既成・できあいの物質文明の中で、物を創り出すよろこびを忘れてしまった子供達に、身近な材料を利用して、創るよろこびを感じられる場として。

期 間 昭和56年8月23日(日)～8月26日(水)午後1時～5時 全3回

会 場 松林分館

参加者 21人×3回＝63人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
8. 23	ピンホール・カメラ	ピンホール・カメラの製作	佐々木堅次氏
8. 24	"	"	担 当 職 員
8. 26	"	"	"

子どもサバイバル教室

工夫することを忘れた子供達に、生きるための知恵を身につけさせ、工夫する心と、いざという時役に立つ、たくましさを養う。

期 間 昭和56年6月24日(水)～7月30日(木)午後2時～4時 全7回

会 場 松林分館および野外

参加者 33人×7回=231人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師	場 所
6. 24	友達づくり	オリエンテーション、班編成	担 当 職 員	松 林 分 館
7. 1	火をつくろう	発火法のいろいろ	星島 清光氏	〃
7. 8	測る	地図の読み方、日時計	担 当 職 員	〃
7. 22	水をつくろう	水の作り方、集め方	星島 清光氏	〃
7. 27	むすび、救急法	結びの技術、救急法	中村 忠規氏	〃
7. 29 7. 30	キャンプ	キャンプ	担 当 職 員	サマーランド キャンプ場

親子工作教室・ひな人形をはりこで作ろう

紙を素材に親子で素朴なひな人形を作り、工夫する心を育む。

期 間 昭和57年2月6日(土)～2月27日(土)午後2時～4時 全4回

会 場 松林分館

参加者 32人(うち親13人)×4回=128人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 6	はりこの製作	はりこ鑑賞、デザイン構想	木住野利明氏
2. 13	〃	型作り	
2. 20	〃	紙はり、型抜き	
2. 27	〃	色つけ、鑑賞会	

子ども教室Ⅰ

ここ10年来、子どもたちの手、足の無器用さがいわれ、かつて子どもの生活の中にあった技が失われてきた。加えて、いま子どもたちは、仲間や集団を自己とのかかわりの中でとらえ、そこを通じて、自己をとらえ直すという、集団認識や自己認識が育っていない、という現実の中で、小学校低学年を中心に、遊びを通じて、手の技工の回復と異年齢集団の回復を目標とした。

期 間 昭和56年8月6日(木)～8月22日(土)

午後1時30分～3時30分 全5回

会 場 松林分館

参加者 22人×5回=110人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
8. 6	みんなであそぼう	班づくり、室内ゲーム	担 当 職 員
8. 13	みんなであそぼう	室内ゲーム	〃
8. 15	みんなでつくろう	わりばし鉄ぼう	〃
8. 20	みんなでつくろう	回転人形	〃
8. 22	デーキャンプ	キャンプ、カレーライス作り	〃

子ども教室Ⅱ（冬の子ども教室）

小学生を対象に地域のあそび集団の再生を目標とした。手の技みさと回復と、仲間に働きかけ、共同の仕事をやりとげる力を身につける。

期 間 昭和57年1月30日（土）～3月27日（日）

午後1時30分～4時 全9回

会 場 松林分館、公園、多摩川、川井キャンプ場

参加者 24人×9回＝216人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1. 30	オリエンテーション	班分け、ゲーム	担 当 職 員
2. 6	たのしくあそぼう	室内ゲーム	〃
2. 13	タコをつくろう	ビニールダコ製作	〃
2. 20	連ダコをつくろう	連だこづくり	〃
2. 27	おもいきって外であそぼう	多摩川原で連だこあげ	〃
3. 6	おもいきって外であそぼう	Sケン、ジャンケンオニ、他	〃
3. 13	折紙であそぶ	4角面、6角面、12面体をつくる	八木 一彦氏
3. 20	野外であそぶ	公園で野外ゲーム	担 当 職 員
3. 27	デーキャンプ	川井キャンプ場でデーキャンプ	八木 一彦氏

子ども指文字・手話教室（子ども会リーダー研修会）

小学4年生以上を対象とし、子どもたちの自己表現能力の現状と課題を見出し、手話を学ぶことを通して、表現力の再生と可能性を考えるものとして企画した。

期 間 昭和56年12月5日（土）～昭和57年2月27日（土） 全9回

会 場 公民館

参加者 13人 延人数102人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
12. 5	オリエンテーション	自己紹介とこれからの進め方	玉井恵子氏（他）
12. 12	手話の学習（Ⅰ）	名まえ、住所の表現のしかた	〃
12. 19	〃（Ⅱ）	時間・場所・行為などの表現のしかた	〃
1. 9	〃（Ⅲ）	好き・きらいなどの表現のしかた	〃
1. 23	〃（Ⅳ）	思う・考える・美しいなどの表現のしかた	〃
1. 30	〃（Ⅴ）	買物・数の数え方などの表現のしかた	〃
2. 13	〃（Ⅵ）	人間の感情の表現のしかた	〃
2. 20	ゲームあそび	手話を使ったいろいろなゲーム	〃
2. 27	まとめ	障害者をどのように考えるか	〃

子どもまつり（子ども会リーダー研修会）

子どもたちの手で、統一したテーマにとりくんでいく中で、集団形成、企画から実施までの過程と学ぶ機会として実施した。

期 間 昭和56年9月26日（土）～11月29日（日）午後2時～4時30分 全10回

会 場 白梅分館

参加者 21人×9回＝189人 当日参加者105人

月 日	テ ー マ	内 容
9. 26	オリエンテーション	プログラムの説明・自己紹介
10. 3	おまつりの企画	どんなおまつりにしていくか話し合う
10. 17	〃	〃
10. 24	〃	〃
10. 31	当日向け詳細準備活動	割ばし鉄砲、あめちゃんのつくり方を仲間同士教え合う
11. 7	〃	ポスター・チラシづくり
11. 14	〃	王冠バッチのつくり方を学ぶ
11. 21	〃	割ばし鉄砲、あめちゃんのつくり方を再確認する
11. 28	〃	当日の役割分担・会場づくり
11. 29	子 ど も ま つ り	

子どもまつりの内容

○実行委員の子どもたちを中心に、「割ばし鉄砲をつくろう」「バッチをつくろう」「あめちゃんをつくろう」「ぼうしをつくろう」「おみこしをつくろう」の各コーナーを開設する。

○子どもたちの手づくり作品（工作、絵、手芸など）を展示した。

わんぱく教室（子ども会リーダー研究会）

異年齢集団のあそびが地域で崩壊していく中で、子どもたち自身が、集団に働きかける力を失って、子どもたち自身で新たな人と人の関係を創り出す力が弱まっている。地域子ども会のリーダーとして、集団に働きかけて何かをやりとげる力と、自治的能力を身につけることを目標とした。

期 間 昭和56年8月5日（水）～8月26日（水）午前10時～正午 全8回

会 場 松林分館、多摩川

参加者 7人×8回＝56人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
8. 5	オリエンテーション	班分け	担 当 職 員
8. 8	ゲームの指導法	ゲームと指導方法の実習	〃
8. 12	ゲームの指導法	〃	〃
8. 15	オリエンテーリング	野外オリエンテーリングと地図の読み方	〃
8. 16	「創る」竹いかだを創ろう	竹いかだ製作図面作成	高校生指導員 と 担 当 者
8. 17	〃	竹いかだ製作	
8. 19	〃	〃	
8. 26	デイキャンプ		

子ども指人形教室

子どもたちの力で、人形劇を作りあげることにより、想像力、創造力、自主性を養う機会として実施した。

期 間 昭和56年9月30日（水）～12月23日（水）午後2時～4時30分 全11回

会 場 白梅会館

参加者 13人×11回＝143人

月 日	内 容	月 日	内 容
9. 30	どんな人形劇をするか話し合い 紙ねんど作り	11. 11	人形の衣装づくり
		11. 18	〃
10. 7	人形の顔づくり	12. 2	人形の動かし方、セリフの言い方
10. 14	〃	12. 9	発表会のためのポスターづくり
10. 21	人形の顔に色をぬる	12. 16	舞台げいこ
10. 28	人形の衣装づくり	12. 23	発表会『大きなかぶ』上演

冬のわんぱく教室

おもちゃづくりの技術と、それを使っての遊びを身につけ、集団で遊ぶことの楽しさを知る機会として実施した。

期 間 昭和57年1月30日(土)～3月13日(土)午後2時～4時30分 全7回

会 場 白梅会館、多摩川

参加者 21人×7回＝147人

月 日	テ - マ	講 師
1. 30	みんなであそぼう	担 当 職 員
2. 6	かん馬をつくろう	〃
2. 13	わりばしてっぽうをつくろう	〃
2. 20	コマをつくろう	〃
2. 27	タコをつくろう	〃
3. 6	連ダコをつくろう	〃
3. 13	タコをあげてあそぼう	〃

わんぱく教室

集団で遊ぶことの楽しさ、物をつくることの難しさ・楽しさを味わう機会として実施した。

期 間 昭和56年7月8日(水)～8月12日(水)午後2時～4時30分 全7回

会 場 白梅会館、羽村町阿蘇公園

参加者 28人×7回＝196人

月 日	テ - マ	講 師
7. 8	オリエンテーション・班をつくろう	担 当 職 員
7. 15	ゲームでともだちをつくろう	〃
7. 22	水でっぽうをつくろう	〃
7. 29	手打ちうどんをつくろう	川嶋 米子氏 他3人
8. 3	デイキャンプ打合せ	担 当 職 員
8. 5	デイキャンプ	高校生指導員・担当職員
8. 12	ひょうしょうしき・まとめ	担 当 職 員

子ども手芸教室

自分の手でものをつくる喜び、共同作業の楽しさを知る機会として実施した。

期 間 昭和57年7月29日(水)～8月7日(金)午後2時～4時30分 全6回

会 場 白梅会館

参加者 30人×6回＝180人

月 日	内 容	講 師
7. 29	自己紹介、班分け	担 当 職 員
7. 30	マスコット人形製作（ヒヨコ）	”
8. 3	” （タヌキ）	”
8. 5	小物入れ製作	”
8. 6	ぬいぐるみ製作（ネコ）	”
8. 7	反省会	”

親と子のひろば

伝承的なおもちゃなどを親子で共同製作することを通して、親子の心のふれあいを深める機会とした。

会 場 白梅分館

参加者 延人数69人 全3回

日 時	内 容	指 導 者	参 加 者
昭和56年10月4日（日） 午後2時～5時	竹馬作りと映画「手づくりあそびと 子どもの手」鑑賞	山本 信男氏	24人
昭和56年12月12日（土） 午後2時～4時30分	お手玉作り	中村千恵子氏 他	12人
昭和57年3月26日（金） 午前10時～正午	ベタベタ工作	松本加代子氏	33人

(3) 青 年

青年学級「英会話」

国際性豊かな人間が求められる現在の社会情勢の中で、国際語としての「英語」、「英会話」の学習要求を満たすとともに、同世代の横のつながりをつくるきっかけとして実施した。
尚、プログラム、テキスト、運営などに関して準備会をもち検討した。

1. 期 間 昭和56年5月13日（水）～昭和57年3月31日（水）
毎週水曜日 午後7時30分～9時30分 全40回
2. 会 場 福生市公民館視聴覚室、第1、2集会室

3. 講 師 宮本 長治氏
4. 対 象 15歳から30歳ぐらいまでの方
5. 参加者 32人×40回=1,280人
6. 教材・教具 テキストにNHKテレビ「英語会話Ⅰ」、VTR、16ミリフィルム等を利用
その他、普段の教室から飛び出して、バーベキュー、クリスマスパーティー等を実施した。

20歳のつどい

成人者みずからが、成人することの意味を考え、祝い、地域の人間関係などを再確認する機会として実施した。実施にあたっては、新成人者に呼びかけ「20歳のつどい実行委員会」を結成し、準備にあたった。

1. 日 時 昭和57年1月15日(金) 正午～2時30分
2. 会 場 公民館第4・5・6集会室、展示室
3. 主 催 20歳のつどい実行委員会・福生市公民館
4. 内 容

(イ) 20歳のつどい

- (1) 生バンド演奏(出演 オミオツケ=公民館活動のグループ)
- (2) フリートークキング
- (3) 実行委員紹介

(ロ) 展示コーナー

私の生まれた日、なつかしのアルバム展示
記念写真をどうぞ

(ハ) 着付け直し、休憩コーナー

5. 対 象 昭和36年4月2日から昭和37年4月1日までに出生した613人
6. 参加者 117人

20歳のつどい実行委員会

20歳のつどい実行委員会は、①成人者みずからが、成人することの意味を確認し、それをみんなのものにする。②20歳のつどいを自分達の手でつくることによって、共通の活動への参加連帯性の生まれる契機とする。③地域社会の活動への参加により地域を考える契機とする。を目的とし、新成人者全員に郵送した呼びかけで参加した3名の成人者で、実行委員会を結成した。

参加者 3人×12回=36人

月 日 (曜)	内 容	
11. 6 (金)	第 1 回実行委員会	自己紹介、去年のつどいの内容紹介
11. 13 "	第 2 回実行委員会	成人することの意味を自身の生き方の中から考える
11. 20 "	第 3 回実行委員会	"
11. 27 "	第 4 回実行委員会	つどいをどういうものにしたいか、つどいのイメージを語りあう
12. 4 "	第 5 回実行委員会	"
12. 11 "	第 6 回実行委員会	企画を練る。" つどい " 展示 " 着付・休憩 " などが案として出る。
12. 18 "	第 7 回実行委員会	企画を練る
12. 25 "	第 8 回実行委員会	当日に向けての準備開始
1. 8 "	第 9 回実行委員会	" 去年の実行委員に応援を求める
1. 13 (水)	第 10 回実行委員会	"
1. 14 (木)	第 11 回実行委員会	"
1. 15 (金)	第 12 回実行委員会	当 日

若い市民の講座

青年層の学習・文化活動の要求に応える為に、さらに、サークル活動の活発化をねらい、青年団体連絡協議会との共催で実施した。

(A) 若い市民の初心者ギター教室

期 間 昭和56年9月30日(水)～昭和57年3月31日(水)

毎週水曜日 午後7時30分～9時30分 全20回

会 場 公民館音楽室

講 師 貝方士 利浩氏

参加者 21人×20回＝420人

※ 教室として、3月6日(土)の吹奏楽愛好会「アンサンブルコンサート」に出演、発表の機会を持つことができた。

(B) 初心者手話教室

期 間 昭和57年1月22日(金)～4月2日(金)

毎週金曜日 午後7時30分～9時 全10回

会 場 公民館第8集会室

講 師 渋谷 恭子氏

参加者 12人×10回=120人

(C) 初心者吹奏楽教室

期 間 昭和57年1月23日(土)～3月6日(土)

毎週土曜日 午後7時30分～9時30分 全6回

会 場 公民館音楽室

講 師 福生吹奏楽愛好会メンバー

参加者 2人×6回=12人

※ 教室として、3月6日(土)福生吹奏楽愛好会「アンサンブルコンサート」に出
演、発表の機会を持つことができた。

(D) ジャズダンス教室

期 間 昭和57年1月25日(月)～3月29日(月)

毎週月曜日 午後7時～9時 全10回

会 場 公民館第5集会室

講 師 河井 みなと氏

参加者 15人×10回=150人

(E) 創作放送劇教室

期 間 昭和57年2月6日(土)～5月29日(土)

毎週土曜日 午後7時30分～9時30分 全16回

会 場 公民館視聴覚室

講 師 南 辰平氏

参加者 14人×16回=224人

(F) 中級8ミリ映画教室

期 間 昭和57年2月17日(水)～3月17日(水)

毎週水曜日 午後7時30分～9時30分 全5回

会 場 公民館視聴覚室

講 師 佐々木 堅次氏

参加者 9人×5回=45人

(G) 登山入門教室

期 間 昭和57年2月21日(日)～3月14日(日)

毎週日曜日 午後1時30分～4時 全4回

会 場 公民館第8集会室

講 師 山岳同人緑峰会メンバー

参加者 11人 × 4回 = 44人

春のサークル交流会

公民館を利用している青年のサークルメンバーが広く横につながり、自分たちの活動を有機的につなげられるように、又、サークル活動を通しての自己の成長を語りあうなかから、自分たちの活動を確認するひとつの場として設定した。

1. 期 間 昭和56年4月11・12日(1泊2日)
2. 会 場 東京都五日市青年の家
3. 対 象 サークル活動メンバー 及び 関心のある方
4. 参加者 14人
5. 内 容 1) 自己紹介 2) サークル活動に求めること・望むこと
3) 個々人の課題解決にむけて 4) レクリエーション

※ 福生市公民館・福生市青年団体連絡協議会の共催で実施いたしました。

青年団体リーダー研修会

公民館を利用しているサークルのリーダー中心に、広く呼びかけ、現在の青年中心サークルの動向等情報交換をするとともに、リーダーとしての役割りや悩みなどを出しあい、より良いサークル運営・活動を目指すため実施した。

尚、実施するにあたり、準備会を数回持ち、文集づくりを進めた。

1. 期 間 昭和57年3月21・22日(1泊2日)
2. 会 場 東京都五日市青年の家
3. 参加者 13人
4. 内 容 1) 自己紹介・サークル紹介 2) サークル年間活動の報告 3) 青連協年間活動の報告 4) 公民館青年教育の年間報告 5) 若い市民の講座実施の中で 6) 公民館・サークルとわたし

※ 福生市公民館・福生市青年団体連絡協議会の共催で実施いたしました。

青年講座「歴史と人物」

幕末の激動の時代に生きた吉田松陰、彼の短い30年の生涯や彼の生きた時代状況を学びながら、それを今の自身に問い返していくことを目標に実施した。尚、参加者の意向を反映するために準備会を2回もった。

1. 期 間 昭和57年1月7日(木)～4月8日(木)
毎週木曜日 午後7時30分～9時30分 全14回
2. 会 場 公民館第2集会室

3. 講 師 伊藤 正明氏
4. 参加者 7人 × 14回 = 98人
5. 内 容 1) 松陰の生涯 2) 時代状況 3) 同時代の思想家 4) 松陰の思想とその変遷 5) 獄中教育 等

(4) 婦 人

婦人学級

50代の婦人のつどい

青春時代のなかった50代。息子さん、娘さんも独立し、ようやく自由な時間をもてる状況となってまいりました。同じ世代をあるいた人達で、今までのこと、これからのことなど仲間づくりをしながら、生きがいを見つけていこうと思います。

このことから、この学級では、同世代の生活の共通問題を明らかにし、熟年期をどう迎え生きるかを考えるとともに、1市民としての地域への係わりについて考えてみた。

期 間 昭和56年10月1日(木)～昭和57年2月25日(木) 全15回

会 場 公民館

参加者 15人 × 15回 = 225人

月 日	内 容	備 考
10. 1	・自己紹介 ・この学級に望むもの ・学習の柱立てについて	話 し 合 い
10. 8	・ナイスミドル延長とたよりになる年寄像、心を開くという学び	〃
10. 15	・精神的な支えとなる仲間関係 ・脊髄損傷の父をもつある事例 ・共働きの増加傾向と地域について	〃 〃
10. 29	・無理ない自然な生き方の中の豊かさ ・これからの家族の形態(家庭の機能)から、地域等社会参加について	〃
11. 12	・婦人の活動から、ヨーロッパ3国婦人の生活見てある記	〃
11. 19	・地球の歴史、自然の法則概要 ・他体及び自体形成進化 ・速度をゆるめ友人間の生き方について	明治大学教授 宮 岡 一 雄 氏
11. 26	・これからの話題 ・欧米志向から日本の生活文化再評価について	話 し 合 い
12. 10	・老後問題の学習と地域活動から、私が50代(今)を生きる こと	小金井老問研 倉 橋 良 子 さん

月 日	内 容	備 考
12. 17	・今後の家族の形態から、高齢化社会を目前に、その問題領域の紹介	都・老人問題研究所 冷水 豊 氏
1. 14	・地域で、母と子が育ち合うということについて	ひこばえ幼児園長 大堀 容子 氏
1. 21	・メンバー間の連絡網の確認 ・公民館、地域で、婦人の活動がヨコにつながり合うことについて	話 し 合 い
1. 27	・市民が主体となって育てる市民音楽活動について	国立音大講師 瀬川 武 氏
2. 4	・婦人グループ交流研究会の紹介と取り組みについて ・市民のお互いの力を育て合うという地域をおこすこと	話 し 合 い
2. 18	・戦後福生の文化面のできごと（その歴史） ・地域の担い手としての婦人への期待	福生珠算学校長 山崎 茂男 氏
2. 25	・これからの活動にむけて ・婦人グループ交流研と公民館のつどいにむけて	話 し 合 い

若いお母さんのための幼児教育学級

「幼児の成長・発達を支えていくために」

私達が住む福生市においても、都市化・核家族化がすすんできました。この人と人とのつながりの薄さは、幼児が近隣の子どもの中で遊ぶ機会を失わせるものとなってきているのではないのでしょうか。

そこで、幼児が、どのようにして成長・発達をとげていくかを見つめるとともに、「たくましく、健康的に、自由に仲間のなかで遊ぶ」という環境をどうととのえていったら良いか、みんなで考えてみようと思います。

このことから、この学級では、幼児の近隣でのお友達づくりに必要な事柄を中心に、家庭での育児や、集団保育（教育）、そして近隣の親同士のつながりについて考えてみた。

期 間 昭和56年6月8日（月）～9月7日（月） 午前10時～正午 全12回

会 場 公民館

参加者 15人×12回＝180人

月 日	テ ー マ	内 容	備 考
6. 8	「はじめに」	①自己紹介(知り合うために) ②幼児教室実	職員の内容紹介
6. 15	オリエンテーション & よきつながりへ	施内容紹介 ③保護者の準備と役割 ①保護者会の役割と分担 ②親の学習内容紹 介と検討 ③公民館及び各種活動の紹介	及び、話し合い 話 し 合 い
6. 22	幼児の成長と発達	子どもの世界の捉え方	ひこばえ幼稚園長
6. 29	について学ぶ	親の役割をもとに、親ばなれ、子ばなれから、 "社会性=善悪観"の芽ばえについて	大 堀 容 子 氏
7. 6	環境と発達	子どもの発達環境で大切な"親の応答関係" 及び、その役割について	群馬大助教授 荻 原 元 昭 氏
7. 13	保育室で子どもは	保育室での子どもの様子報告から、異年令集 団での成長について	公民館保育者 高橋登美子先生
7. 20	集団の中の子ども を知るために	親が幼児の集団に係わる視点と方法について	公民館保育者 中山 明 子 先生
7. 27	(第1班)	これまでの学習から私の育児あれこれ	話 し 合 い
8. 17	親と幼 (第2班) し児(の ての保 育集 団室 をに 学て ぶ)	保育室か 保育室での子どもの実情交換と助 ら報告I 言 (幼児集団指導の紹介)	公民館保育者 稲 木 道 子 先生
8. 24	(第3班)	" 家庭・地域、そして子どもの教育 II に思うこと	市民の婦人活動から 志 村 立 さん
8. 31		" III 遊び仲間参加にむけて	話 し 合 い
9. 7	まとめ	これまでの整理(文集づくり)とこれから	話 し 合 い

以上の経過から、幼児集団の充実にむけ、保護者の役割を果し、子どもが集団の中で成長する様子と、親の役割を考えるとともに、自ら独立した主体(おとな)として、社会の中の存在である私(市民)の自己形成にむけ、自主グループ化し、今後の活動をすすめることとなった。

日米婦人文化交流事業

昭和50年度から、横田基地将校夫人クラブの手により、日米親善の一環として、婦人の生活文化交流を目標に実施され、本年は、その7年目となる。

また、昨年から相互交流の主体として、"ふっさレディースフレンドシップサークル"の名称で、主体的な交流活動をすすめてまいりました。

そこで、アメリカ婦人との交流をもとに、"婦人の生活" "家庭や地域"など、日本の文

化を考えながら、社会の中の私、人と人との共同・協力をもとめていくことと、そのための英会話習得の機会としてもすすめた。

1. 期 間 昭和56年9月3日から昭和57年5月27日 毎木曜 全35回

(アメリカの学期)

2. 時 間 午前クラス(A・B・C) 午前10時～正午まで

午後クラス(D・E・F) 午後1時～3時まで

3. 会 場 福生市民公民館(各室)及び、福生会館(集会室)

4. ボランティア・ティーチャー(日常の交流者及び英会話指導)

6クラス×2人(ペア指導)=12人

5. 世話役 Mrs. Yoshie Brady

6. 教 材 各クラス単位自主企画のため、各々で選定及び資料自作

参加 15人×6クラス×35回=3,150人

7. 全体交流事業

I 村山大島つむぎのできるまで(地場産業紹介) 将校夫人約100人参加

II 福生の文化財の紹介(民俗行事の紹介中心に) " 約100人参加

8. 婦人文化交流クラスリーダー会

交流内容の豊かなふくらみとなるよう、一方の交流主体としての力を形成し、主体的な日本側交流事業の企画・実施をおこなった。

① 日常のクラス運営及び学習方法の検討・研究

② アメリカ婦人の生活や地域における行動について研究

③ 交流事業の企画・実施

④ 地域の婦人グループとの交流

参加 15人×12回(月例)=180人

婦人グループ交流研究会

公民館での婦人の活動がはじまって、5年を経ようとしています。今回、そうした、婦人グループの活動の"交流の機会"として実施した。現在、公民館では、このほか、青年の学習や文化活動、及び市民の手による音楽を育て合う活動などの分野で横につながり合って充実にむけている。ともに交流を深め、生活や地域での、生きる上でかけがえのない活動となっていくことと、その拠点となる公民館について知る機会となるよう、以下のとおり実施した。

期 間 昭和57年3月17日(水)～3月31日(水) 全3回

会 場 公民館

参加者 40人×3回＝120人

月 日	内 容	備 考
3. 7	—— いま、公民館で、こんな活動が、 —— ○婦人の各グループ活動の紹介 ○青年の学習・文化活動の様子 ○市民音楽活動の様子	青年の活動事例 丹沢 亮さん 吉田順之さん 音楽活動事例 瀬川 武さん 鳥居由幸さん
3. 24	—— 相互の活動を知り合う中で —— 婦人の活動をはじめ、現在、社会教育・公民館に期待されるもの	講師 中央大学助教授 奥 田 泰 弘 氏
3. 31	—— ゆたかな場と、ゆたかな活動をもとめて —— 福生の公民館（都市型）のこれから。そして、婦人グループの活動のこれからについて	講師 東京学芸大学教授 小 林 文 人 氏

※ 呼びかけ対象グループ 婦人の活動15グループ 総人数約220人

この婦人グループ交流研究会は、公民館使用グループ総体的な結合へのあしがりとして、出逢い、知り合う、交流事業として主催で実施した。

家庭教育学級＝子育てと親の生き方を求めて

今日の乳幼児をかかえる母親たちは、心理的にも、物理的にも、母と子が抱束しあって生活し、子どもに縛られた生活をしている。その中で、「子どもの発達のゆがみ」大人の「かわり」の弱さが生れて来ている中で、「子どもがみれる状況」をつくるとともに、「主婦」の状況をはっきりとさせていく。講座に先だって10回の準備会がもたれた。

期 間 昭和57年1月27日（水）～3月31日（水） 午前10時～12時

全10回

会 場 松林分館

参加者 18人×10回＝180人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1. 27	オリエンテーション	準備会の説明、自己紹介	担 当 職 員
2. 3	子どもの成長と発達	さくらんぼほうやⅠⅡを見て	担 当 職 員
2. 10	育つ力、育てる力とは	幼児期の成長・発達の特徴を明らかにし、子育てを考えます。	吉 村 真 理 子 氏 (立川保母学院講師)
2. 17	私にとって子育てとは	討論、作文	担 当 職 員

月 日	テ - マ	内 容	講 師
2. 24	幼児にとって、集団とは	乳幼児にとって集団とは。集団が乳幼児に与える発達の意味を考える。	吉 村 真 理 子 氏 (立川保母学院講師)
3. 3	私にとって子育てとは	討論	担 当 職 員
3. 10	これからの学校教育	80年代の学校教育制度はどう変わって行くのか	白 井 慎 氏 (法政大教授)
3. 17	婦人のおかれている現状 I	母であり、妻であり、女性である主婦がいまどんな状況のもとにおかれているのかを整理し、2回にわたって今日の婦人問題を考えます。	富 永 静 枝 氏 (白梅短大助教)
3. 24			
3. 31	子育て「自立する」ということ	子どもを育てることと、「女」が生きることがどうつながっているのかを考える。	木 村 栄 氏 (母性を開く、著者)

婦人学級「女性の生き方を求めて」

子育てや仕事、家事と日常の生活に追われる婦人が、その中での疑問や問題を整理し、生き生きとした女性の生き方を求めるために。

期 間 昭和56年6月26日(金)～7月31日(金)午後7時～9時 全6回

会 場 松林分館

参加者 13人×6回＝78人

月 日	テ - マ	講 師
6. 26	新しい家庭のあり方をめぐって	富 永 静 枝 氏 (白梅短大助教授)
7. 3	女が働いていくために	
7. 6	ゆたかな老後を送るために	
7. 10	わたしの婦人の問題	
7. 24	地域と婦人(女と社会)	
7. 31	おんなと法	朝倉 睦子氏(都立大助手)

婦人文章教室

毎日の生活に押し流されている婦人が、書くことによって、自分と自分の生活をみつめなおし、また、自分の考え方、価値感を文章で書けるようにする。

期 間 昭和56年9月25日(金)～11月6日(金)午後7時～9時 全8回

会 場 松林分館

参加者 20人×8回＝160人

月 日	テ	ー	マ	講 師
9. 25	書くことの基本Ⅰ		ものを見ること	桑名 靖治氏 (都立三鷹高校教諭)
10. 2	〃	Ⅱ	ものを考えること	
10. 9	書く作業Ⅰ		何をどう書くか	
10. 16	〃	Ⅱ	書く手順とたしかめ	
10. 30	書くことの深化Ⅰ		書くことで自分からはなれる	
11. 2	文集製作			
11. 5	文集製作			
11. 6	書くことの深化Ⅱ		書くことで自分をたしかめる	桑名 靖治氏

婦人学級「文学にみる女性」

小説に描かれた主人公の生き方を通して、女性の生き方を考える機会として実施した。

期 間 昭和56年6月26日(金)～7月24日(金)午前10時～正午 全5回

会 場 白梅分館

参加者 19人×5回＝95人

月 日	テ	ー	マ	講 師
6. 26	はじめに、朗読をきく		樋口一葉「十三夜」	折井美耶子氏 (歴史科学協会)
7. 3	樋口一葉「十三夜」		忍従の女性・お関	
7. 10	長塚節「土」		農村の女性・お品	
7. 17	祖母、母の時代			
7. 24	宮本百合子「伸子」		大正期の新しい女性像・伸子	

女性講座「歴史に学ぶ」

歴史の中で女性がどのように生きていたかを学び、自分自身を歴史の流れに位置づけることができるようにする。

期 間 昭和56年11月9日(月)～昭和57年3月15日(月)

午前10時～正午 全13回

会 場 白梅分館

参加者 25人×13回＝325人

月 日	テ マ	講 師
11. 9	オリエンテーション、映画「日本歴史の流れ」鑑賞	担 当 職 員
11. 16	近代日本の開幕——明治維新	折 井 美 耶 子 氏 (歴 史 科 学 協 会)
11. 30	民権か国権か——自由民権運動	
12. 7	富国強兵をささえた人々——日清、日露戦争	
12. 14	自由と権利を求めて——大正デモクラシー	
1. 18	戦争への足音——昭和恐慌	
1. 25	戦時体制——十五年戦争Ⅰ	
2. 1	焦土となって——十五年戦争Ⅱ	
2. 8	近代史のまとめ	
2. 15	何を学んだか、学べたか	
2. 22	文集づくり	
3. 1	”	
3. 15	草の根憲法の里を訪ねて	新 井 勝 紘 氏 (市文化財保護審議会委員)

ヤングミセスの教室

母親が、集団の中で学びあうこと、子育ての問題を考える機会として実施した。

期 間 昭和56年11月11日(水)～昭和57年3月24日(水)

午前10時～正午 全18回

会 場 白梅分館

参加者 9人×18回＝162人

月 日	内 容	講 師
11. 11	オリエンテーション	担 当 職 員
11. 18	子どもを育てながら思うこと	
12. 2	”	
12. 9	”	
12. 16	保育者、子どもと一緒に	
1. 13	私の子育て	
1. 20	子どもたちの生活	
1. 27	前回テーマについての話しあい	
2. 3	次回講義内容について検討	

月 日	内 容	講 師
2. 7	自主性を伸ばす家庭教育	村 田 和 子 氏 (白梅短大附属幼稚園長)
2. 10	前回講義について話しあい	担 当 職 員
2. 17	映画「わるくなったというけれど」鑑賞	
2. 24	次回講義内容について検討	
3. 3	「子どもからの自立」(伊藤雅子著)レポートより	
3. 7	お母さんの悩みに答えて	村 田 和 子 氏 (白梅短大附属幼稚園長)
3. 10	前回講義について話しあい	担 当 職 員
3. 17	これまでのまとめ	
3. 24	これからの活動について	

(5) 成人・一般

市民文化教室

1. 主 催 福生市公民館・福生市文化連盟
2. 目 的 多くの市民に趣味や実技、教養に関する初歩的学習の機会を提供することによって、市民の文化諸活動への参加を促し、市民文化活動の拡大に役立てる。(生活への還元・グループへの参加・新しいグループの創造)
- (1) 公 民 館 連盟の力を伸ばすとともに、市民の学習の場を拡大していく。
- (2) 文化連盟 連盟の持つ力を、市民に提供することによって、市民文化形成のリーダーの役割を果たすと同時に、組織の拡大(参加者や活動面)に役立てる。

市 民 文 化 教 室 実 施 状 況

文化連盟共催(11)

参加者 272 人 延人員 2,720 人

コース	開講期間	内 容	指 導 者	参加人員
尺 八	7月9日(木)から全10回	都山流尺八の吹奏技術習得	城戸皓山氏 岸野皓明氏 荻野皓樹氏	15
将 棋	7月12日(日) "	初心者への手ほどき、定跡実戦指導	栗 原 玄 氏 羽 鳥 健 夫 氏	12
日 本 人 形	7月15日(木) "	木目込人形、尾山人形、御所人形、市松人形	酒 井 虹 晨 氏	11
詩 吟	7月16日(木) "	基本的な大意、発声、吟じ方を習得する	広 瀬 鳳 鵬 氏	7
民 踊	7月17日(金) "	民謡踊り(ほたる小唄、秋田もとすり唄)	松 本 泰 子 氏	23

コース	開講期間	内 容	指 導 者	参加 人員
盆 栽	7月18日(土) から全10回	やさしい盆栽のつくり方(肥料のやり方、剪定、さし木、つぎ木、よせ植)	大谷光利氏 岩波 実氏 飯田三一氏	9
民 謡	8月 3日(月) "	民謡(武田節、生保内節、西東京音頭)	白 瀬 春 駒氏	14
編物手芸	8月 6日(木) "	手軽な手作り手芸(三角ストール)	堂 田 きよ子氏	35
社交ダンス	8月24日(月) "	基本ステップ、リズムのとり方、組み方	長 島 正 穂氏	73
茶 道	9月 4日(金) "	表千家茶道	麻 生 泉 秋氏	23
書 道	9月 7日(月) "	漢字、平かな、基本の運筆とその知識	内 田 閑 堂氏	50

公民館主管(6)

参加者80人 延人員622人

コース	開講期間	内 容	指 導 者	参加 人員
スクリーン 印 刷	6月10日(木) から全10回	基本的なスクリーン印刷の修得	伴 内 伊三郎氏	16
8 ミ リ 映画制作	7月 8日(木) "	8ミリの基礎から応用	佐々木 堅 次氏	10
デッサン	9月 7日(月) から全8回	デッサンの基本技術習得	井 上 新太郎氏	14
レコード コンサート	10月 1日(木) から全6回	各国の音楽の鑑賞	金 子 博 之氏	6
スクリーン 印刷(年賀)	11月26日(木) から全8回	スクリーン印刷による年賀状製作	伴 内 伊三郎氏	5
七 宝 焼	2月 3日(木) から全6回	七宝焼の基礎と製作	市 川 高 幸氏	29

文化団体リーダー研修会

文化、芸術活動の地域で行なわれることの大切さ、更にそれが公的に保障されていくことの意味を学ぶ機会として実施した。

期 間 昭和56年12月6日(日)～12月13日(日)午後1時30分～4時 全2回

会 場 公民館

参加者 17人×2回＝34人

月 日	内 容	講 師 ・ 方 法
12. 6	文化芸術活動の生み出すもの (市民としての活動の意味)	瀬 川 武 氏 講義と話し合い
12. 13	" 公民館 " その意義と役割 (活動をより広め、深めるために)	奥 田 泰 弘 氏 講義と話し合い

視聴覚リーダー研修会

視聴覚教育の拡充を目指し、16ミリ発声映写機操作講習会を次のとおり実施した。

1. 期 間 昭和56年7月6日(月)～7月12日(日)
2. 会 場 公民館視聴覚室他
3. 講 師 西野 光芳氏(東京都立川社会教育会館)他
4. 参加者 27人×6回＝162人
5. プログラム

日 時	7:00	8:00	9:00	10:00
6日(月)	受付 開講式	視聴覚教育について	社会教育備品の貸し出しについて	
8日(水)	映写機の機構と操作	フィルムについて	実 技①	
9日(木)	実 技 ②	実 技 ③		
10日(金)	実 技 ④	実 技 ⑤		
11日(土)	実 技 ⑥	実 技⑦	実 技 ⑧	
	10:00	11:00	12:00	1:00
12日(日)	実 技⑨	自由操作	昼 食	個 別 操 作
				2:00
				3:00
				4:00
				修了式

子ども会リーダー研修会(大人)

今年度の子ども会リーダー研修会は、初めて子ども会の役員になった人が、主に印刷の作業やレクリエーションゲーム等の技術的なことを学ぶ機会と、次年度の子ども会役員になった人に、子ども会の本来的役割や諸注意点などについて学ぶ機会の2回に分けて実施した。

期 間 昭和56年5月13日(水)～15日(金)、昭和57年3月12日(金)～26日(金) 全6回(時間帯は夜間)

会 場 公民館

参加者 23人 延人数63人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 13	社教備品の使い方	いろいろな活動に利用できる社教備品の紹介	野澤久人氏
5. 14	ゲームのやり方	かんたんなゲームを、実践しながら覚える	伊藤達彦氏
5. 15	印刷技術を学ぼう	パンフレット・チラシを作ってみる	近藤和夫氏
3. 12	子ども会って?	子ども会のあり方と必要性を考える	宮岡一雄氏
3. 19	役員って何するの	役員の具体的役割を考える	比嘉佑典氏
3. 26	公民館のお手伝い	公民館のできる援助について紹介する	野澤久人氏

子どものあそびと文化を考える（子ども会リーダー研修会）

子ども会指導者及び子どもの文化に関心を持つ大人を対象に、地域の子ども組織の問題と、その文化的役割を明らかにすることに目標をおいて実施し、特に実践から学ぶことを重点においた。

期 間 昭和57年3月4日（木）～3月25日（木）

午後7時30分～9時30分 全4回

会 場 松林分館

参加者 8人×4回＝32人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3. 4	子どもを引きつける技術1	子どもたちの注意力を指導する側にふりむけるために、チョットしたゲームや技術があればとてもたすかります。そのポイントを2回に渡って学びます。	今 井 利 己 氏 （ 狛 江 公 民 館 ）
3. 11	子どもを引きつける技術2		大 和 勝 好 氏 （ 狛 江 公 民 館 ）
3. 18	地域に根ざす子ども会	地域に生き生きとした子どもの生活をつくって行くためにいまなにをすればいいのか。	山 下 芳 彦 氏 （ 少 年 少 女 セ ン タ ー ）
3. 25	冒険学校から学ぶ	冒険学校東久留米の実践を学ぶ	二 本 松 は じ め 氏 （ 全 レ ク 会 議 ）

子ども会指導者研修会「子どもの成長とおとなの役割」

子どもたちの生活や成長をめぐるさまざまな問題が起きている今日、子どもたちが地域で共に育つためにはどうしたらよいのか、地域のおとなの役割を考えていく機会として実施した。

期 間 昭和57年3月12日（金）～3月19日（金）午前10時～正午 全2回

会 場 白梅分館

参加者 26人×2回＝52人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3. 12	子どもの生活実態と問題点	子どもの生活実態、体や成長に対するゆがみ等、いま子どもにあらわれている問題を明らかにする。	南 里 悦 史 氏 （ 都 立 教 育 研 究 所 ）
		地域での異年齢集団活動が、子ども	

月 日	テ - マ	内 容	講 師
3. 19	子どもの成長と地域の役割	の発達にとってどういう意義をもっているのか。いま子どもたちにとって、地域にどのような生活・文化活動が必要なのか。また、それをつくりだし育てるために、父母や地域の住民はどうしたらよいかを考える。	比 嘉 佑 典 氏 (東 洋 大 学)

市民大学講座 法 律

法律の中でも、日常生活に最も関係の深い民法を題材に、高令化社会や少年非行がさげられるこの時期に、もういちど法律を通して家族というものを考える。

期 間 昭和56年11月5日(木)～12月10日(木)午後7時～9時 全7回

会 場 松林分館

参加者 25人×7回＝175人

月 日	テ - マ	講 師
11. 5	家族法の基本原理	二 宮 充 子 氏 弁 護 士 (明 治 大 講 師)
11. 12	夫婦間の法律(婚姻関係)	
11. 19	親子間の法律(親権)	
11. 26	親族扶養	
12. 3	相 続	
12. 4	裁判傍聴会	
12. 10	遺 言	二 宮 充 子 氏

市民大学講座 経 済「財政関連からの経済諸問題を考える」

日本の財政についての研究をもとに、その国民経済に与える影響や、最近の経済動向を見るときともに、地方自治やまちづくりについて考えてみた。

期 間 昭和56年6月12日(金)～7月31日(金) 全8回

会 場 公民館

参加者 13人×8回＝104人

月 日	テ ー マ	内 容	備 考
6. 12	はじめに	・自己紹介（知り合うために） ・内容案紹介 と学習希望について ・市民の大学講座とは	助言及び講師 専修大学教授
6. 19	財政トピカル	世界情勢及び世界経済の動向から(国債防衛費)	殿 村 晋 一 氏
6. 26	財政のしくみ	国家財政のしくみ	都立商科短大教授
7. 3		地方財政のしくみ	佐 藤 哲 郎 氏
7. 10	日本経済の現状	高度経済成長の破綻と講造的危機	都留文化大学
7. 17	と展望	最近の経済情勢の特徴と今後の展望	川 上 則 道 氏
7. 24	まちづくりとは	マイタウン構想ほか、各種まちづくり構想	講師及び助言
7. 31		これからのよきまちづくりについて	佐 藤 哲 郎 氏

日曜市民大学講座 社会教育

「生きることと学ぶことから、市民の社会教育・公民館を考える」

現代は、日常生活で学ぶ必要と機会が広がりつつある時代です。そこで、あらためて「生きることと学ぶこと」、そして「地域で人と人とが育くみ合うつながり」にむけて、市民の学習・文化・教育の場となる社会教育（公民館）について考えてみた。

期 間 昭和56年6月7日（日）～7月5日（日）午前10時～12時 全5回

会 場 公民館

参加者 15人×5回＝75人

月 日	テ ー マ	内 容	備 考
6. 7	社会教育とは何か 公民館の役割と働き	・内容の紹介 ・社会教育の理論の実際学習方法 ・公民館の構成要素及びその役割と働き。	中央大助教授 奥 田 泰 弘 氏
6. 14	福生市 公民館の現状	・都市公民館のおかれている状況 ・公民館を使用して思うこと。	話題提供と話し合い 公 民 館 長
6. 21	人はどのようにして人たりうるか	最も弱い生物体としての人間が、最も高度な働きをもつ生物となるが、その学習と環境について。	明治大学教授 宮 岡 一 雄 氏
6. 28	みんなでつくるまちと公民館(自治)	自らの向上という個人的視点と、市民としての社会的視点をもとに、みんなで創る意味を考える。	学芸大学教授 小 林 文 人 氏
7. 5	福生市の 公民館のこれから	現状と問題点をもとに 使用者・職員・リーダーの各々の立場から	話題提供・話し合い 公 民 館 長

市民大学講座 学校教育「学校教育を考える」

学校教育は今日、さまざまな問題をかかえている。こうした状況の中で、単に我子の問題だけでなく、すべての子どもが豊かに育って行く状況をつくるために、教育の問題を巾広い知識の中でとらえ正して行く。7月から全10回の準備会をもった。

期 間 昭和56年10月1日(木)～12月17日(木)午前10時～12時 全12回

会 場 松林分館

参加者 11人×12回＝132人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
10. 1	オリエンテーション	準備会プロの説明	担 当 職 員
10. 8	子どもたちはいま	今日の子どものおかれている状況を明らかにし、子どもの全体像を明らかにする	南 定 悦 史 氏 (都 研)
10. 15	子どもたちの心と体	子どもの身体的な発達の危機を明らかにする。	坂 入 博 子 氏 (母 親 連 絡 会)
10. 23	荒れた子どもたちの背景	非行の現状と問題点を明らかにする	担 当 職 員
10. 29	荒れる中学生	非行の現状を中学生の校内暴力を中心に明らかにし、荒れる中学生の背景を考える	関 根 庄 一 氏 (総合教育研究所)
11. 5	学力とは何か 子どもたちが豊かに 育つ学力とは	子どもたちが伸び伸び育つ学力をどうつ くって行くのか、偏差値、内申書などを 考える	
11. 12	教科書の歴史	戦前の教科書の成立と教科書をめぐる歴 史的背景を明らかにする	来 栖 良 夫 氏 (児 童 文 学 者)
11. 19	学習指導要領と教科書Ⅰ	戦後学習指導要領の変化と教科書との関 係を見て行く	徳 武 敏 夫 氏 (歴 史 学 者)
11. 26	Ⅱ		
12. 3	教科書が手にわたるまで	教科書が一般の手にわたるまでの編 過 程を見る	
12. 10	教科書を読んで		担 当 職 員
12. 17	〃		

市民大学講座 文 学「万葉集を読む」 旅人と憶良の世界

古典、万葉集を読むことを通して、万葉の時代の人々の生活をさぐりながら、日本の古典文学を学ぶため実施した。

期 間 昭和56年11月13日(金)～12月12日(土)

午前9時30分～11時50分 全5回

会 場 松林分館

参加者 23人×5回＝115人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 13	奈良時代の初期の歴史	平城遷都より天平5年にわたる奈良時代初期の歴史的背景を明らかにする。	高 野 正 美 氏 (立川短大助教授)
11. 20	大宰府の旅人	大伴家 父であり、山上憶良と交友のあった旅人の生涯を2回に渡って考えて行きます。	"
11. 27	"		
12. 4	官人 憶良	遣唐使として渡唐後に筑前守となった下級官人の憶良の思想を考えます。	"
12. 12	憶良と子どもたち	人生の苦悩や社会の矛盾を集中的にうたった思想歌人の子どもたちによせた心を考える。	"

市民大学講座 歴史 「郷土史講座」

市民がみずからの力で地域の歴史を発掘し、再構成する力をもつことを目的として、郷土史に関する論文を提出し報告する、ゼミ形式で実施した。

期 間 昭和57年1月31日(日)～4月4日(日)午後1時30分～4時 全8回

会 場 松林分館

参加者 11人×8回＝88人

月 日	テ ー マ	講師、報告者
1. 31	オリエンテーション	担 当 者
2. 14	福生の郷土史 I	立 川 愛 雄 氏
2. 21	福生の郷土史 II	"
3. 7	多摩川の漁労の試論	宮 田 満 氏
3. 14	近世畑作農村における農村と食生活	"
3. 21	武州一揆における一農民	峰 岸 秀 雄 氏
3. 28	絹の道をたずねて史跡見学会	新 井 勝 紘 氏
4. 4	寛政元年、熊川村に於ける村方騒動について	高 崎 勇 作 氏

市民大学講座 「子どもとテレビ」

テレビが子どもの生活のなかで大きな位置を占めている今日、子どものテレビ視聴の問題点を探り、いかにテレビを子どもの味方にしていくかを考える機会として実施した。

期 間 昭和56年7月4日(土)～7月18日(土)午後2時～4時 全3回

会 場 白梅分館

参加者 15人×3回＝45人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 4	子どもはテレビをどう見ているか	子どものテレビ視聴の現状とテレビが子どもの成長に与える影響を明らかにする。	片 岡 輝 氏 (子どものテレビの会)
7. 11	テレビコマーシャルと子ども	テレビコマーシャルの実態と子どもに与える影響を明らかにする。	小 室 加 代 子 氏 (子どものテレビの会)
7. 18	テレビを子どもの味方に	テレビのことで家庭で困っていること、工夫していることなどを出し合い、子どもにテレビをどう見せたらよいかを考える。	鈴 木 み どり 氏 (子どものテレビの会)

市民大学講座 社 会「わたしたちの暮らしと社会保障」

社会保障に関する基礎的知識を学び、福祉について考える機会とした。

期 間 昭和57年3月3日(水)～3月31日(水)午後7時～9時 全5回

会 場 白梅分館

参加者 10人×5回＝50人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3. 3	社会保障と人口問題	社会保障と人口問題のかかわりについて	佐々木交賢氏 (創価大学教授)
3. 10	医療問題	医療改善のためにどうしたらよいか	
3. 17	年金制度	年金制度の現状とその問題点	
3. 24	福祉行政と地方自治	福祉行政をめぐる問題について	児 島 亀 之 助 氏 (福祉事務所長)
3. 31	福祉政策への提言	福祉政策のあり方	佐々木交賢氏

市民大学講座 「福生の自然と環境を考える」

市内に在住の、植物・昆虫・野鳥などの専門家・研究者に、市内の自然の現状を分析してもらい、私たちの日常生活とどのような関係があるのかを考える機会とした。

期 間 昭和56年10月7日(水)～10月28日(水) 全4回

会 場 公民館

参加者 15人 延人数40人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
10. 7	市内多摩川の植物	植物から見た多摩川の様子について	宮 岡 一 雄 氏
10. 14	" 水質	水生昆虫から見た多摩川の水質について	田 中 和 明 氏
10. 21	" 昆虫	市内の昆虫の様子について	栗 原 仁 氏
10. 28	" 野鳥	野鳥から見た多摩川の様子	岡 田 紀 夫 氏

自然観察会

私たちが日常生活を営んでいる福生を自然の側面からいろいろと観察し、自然のもつ働きと私たちの日常生活との関係を考える機会とした。なお、設定日時は人間にとって観察・理解しやすい時期を選んだ。また、植物の観察会は雨天のためすべて中止となってしまった。

期 間 昭和56年6月8日(日)～昭和57年3月14日(日) 全7回

参加者 105人 延人数190人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 27	水生昆虫観察会	水辺・水虫に生息する昆虫の観察	田 中 和 明 氏
12. 20	野 鳥 観 察 会	渡来した冬鳥の観察	岡 田 紀 夫 氏 栗 原 仁 氏
2. 14	"	主に広い水辺のカモ類を中心に観察する	
2. 21	"	柳山公園に飛来した冬鳥の観察	
2. 28	"	玉川上水沿いの林に生息する野鳥の観察	
3. 7	"	平井川と草花付近に生息する野鳥の観察	
3. 14	"	滝山丘陵に生息する野鳥の観察	

松林ホームシアター(松林分館)

上 映 日	上 映 作 品	上 映 時 間	入 場 者
4月25日(土)	ピッピ船にのる	午前10時、午後2時 2回	166人
5月23日(土)	鳩と車イス	午前10時、午後2時 2回	140人
6月28日(日)	ニルススのふしぎな旅	午前10時、午後2時 2回	145人
7月25日(土)	小人になったポッパー博士	午前10時、午後2時 2回	130人
8月23日(日)	ゆかいなアシカ騒動	午前10時、午後2時 2回	58人
9月27日(日)	影絵のファンタジー	午前10時 1回	30人

上映日	上映作品	上映時間	入場者
10月24日(土)	森は生きている	午後 2時・3時半 2回	220人
10月25日(日)	〃 〃	午後12時半 1回	391人
11月29日(日)	人形劇「小さな仲間たち」	午後 1時 1回	50人
12月 6日(日)	ふしぎなおじさんとわんぱくジョージ	午前10時、午後2時 2回	75人
1月23日(土)	すばらしい風船旅行	午後 1時半、3時 2回	170人
2月27日(土)	ちびっ子エミール	午後 1時半、3時 2回	100人
3月26日(金)	教室205号	午前10時、午後2時 2回	100人

計 1,775人

白梅親子映画会（白梅分館）

親子連れで見られるような作品をとりあげ、子どもたちにすぐれた映像文化を提供するために実施した。

上映日	上映作品	上映時間	入場者
4月26日(日)	ピッピ船にのる	午前10時30分	70人
6月27日(土)	ニルスのおしぎな旅	午後 1時30分、3時	200人
8月22日(土)	ゆかいなアシカ騒動	午前10時、午後3時30分	45人
10月25日(日)	森は生きている	午前10時30分、午後2時	50人
12月 5日(土)	ふしぎなおじさんとわんぱくジョージ	午後 1時30分、3時	85人
2月28日(日)	ちびっ子エミール	午前10時、午後2時	100人

計 550人

白梅名画劇場（白梅分館）

すぐれた映像芸術を身近なところで気軽に鑑賞できる機会として実施した。

上映日	上映作品	上映時間	入場者
9月20日(日)	どですかでん	午後2時	37人

だれでもなんでも展（松林文化祭）

地域に開かれた文化祭をめざし、(1)地域に手づくりの文化を育てるために (2)市民のふれあいの場に、(3)分館の活動を地域に広め、地域の人々が気軽に参加できる文化祭を目標として実施した。実行にあたっては、利用者交流会が主体となって「だれでもなんでも展をすすめる会」を結成し、準備委員、参加作品を地域から公募した。

準備会日程

9月9日	「だれでもなんでも展」すすめる会発足 展のイメージ検討
9月16日	「第2回展のイメージづくり」検討
9月26日	作品公募
10月3日	利用サークルの出展作品の報告 実演コーナーの決定
10月10日	当日の役割分担の決定
10月17日	当日の運営方法の検討
10月23日	作品搬入 展示
10月24日	みんなでなんでも展
10月25日	

当日のプログラム

10月24日 書道・陶芸・絵画・手芸・写真等展示、文集展、サークル展、教科書展

映画「森は生きている」

10月25日 展示コーナー

自作実演コーナー 陶芸、七宝焼、ペタペタ工作

伝承コーナー わりばし鉄砲、竹おもちゃ、カンゲタ

模擬店

映画「森は生きている」

人形劇 小さな仲間たち

応募作品 852件 参加サークル 13団体 出品者数 234人

延入場者数 3,148人

利用者交流会（白梅分館）

白梅会館利用団体と職員により、利用団体相互の交流、分館運営に関するさまざまな事項について協議するために実施した。

日 時	内 容	参 加 者
昭和56年10月23日(金) 午後7時30分～9時30分	各グループ活動状況等の情報交換、館に対する 意見・要望について	12団体 27人

「白梅会館利用者発表会」準備会（白梅分館）

第1回利用者交流会において、利用者より、白梅会館で活動しているグループの交流の場として、また地域に活動を広めていくために発表会をやりたいという声があがった。以後、

交流会を母体に、57年5月を実施の目処に準備会を開催するはこびとなった。

準備会日程

日 時	名 称	内 容	参 加 者
昭和56年11月27日(金) 午後7時30分～9時30分	準 備 委 員 会	発表会のイメージの検討	12団体 13人
昭和56年12月17日(木) 午後7時30分～9時	〃	〃	5団体 6人
昭和57年 2月10日(水) 午後7時30分～9時	〃	発表会の趣旨検討	13団体 14人
昭和57年 2月25日(木) 午後7時30分～9時30分	実 行 委 員 会	実行委員会発足 実行委員長選出	17団体 18人
昭和57年 3月10日(水) 午前11時～午後12時30分	〃	展示の部プログラムづくり	7団体 7人
昭和57年 3月10日(水) 午後7時30分～9時30分	〃	演示の部プログラムづくり	11団体 12人

松林文庫

地域の子どもたちにすぐれた児童文化を提供していく場として、地域の母親たちと共催した。

期 間 昭和56年4月2日(木)～昭和57年3月25日(木) 毎週木曜日

午後3時～5時

会 場 松林分館

4月 2日	読み聞かせ 「おいしいの冒険」
4月16日	読み聞かせ Who's there? Open the door
5月14日	「葉っぱのゆりかご」「地球、月、太陽の様子」 16ミリ映画
5月28日	「せかいにパーレ、ただひとり」(読み聞かせ)
6月 4日	読み聞かせ 「お母さんの木」
6月11日	〃 「けしつぶクッキー」
6月25日	〃 「そらいろのたね」
7月23日	「月の様子」「人類月に立つ」 8ミリ映画
8月 3日	石細工(中村さん指導)

8月 6日	石細工（中村さん指導）
8月13日	ゲーム指導
8月17日	紙ねんどづくり
8月20日	読み聞かせ 「かわいそうなぞう」
8月24日	紙ねんど色ぬり
9月 3日	文庫会議
9月10日	「昆虫記の世界」（16ミリ映画）
10月 1日	文庫会議
10月22日	読み聞かせ 「雨とひょう」
11月12日	「心ぞうのはたらき」「冬の天気図」（16ミリ映画）
12月 5日	文庫会議
12月10日	「花のはなし」「海ひこ山ひこ」（16ミリ映画）
12月17日	文庫クリスマス会準備
12月24日	文庫クリスマス会
1月14日	文庫会議 「まいごのてんとう虫」「ひつじの様なライオン」（16ミリ映画）
2月18日	「ムシムシ海へ行く」「ミダス王物語」（16ミリ映画）
3月11日	「金色のしか」「むしは冬どうしているか」

総利用人数 1,769人

(6) 高齢者

高齢者の語らいの広場

今年度から“高齢者の語らいの広場”を実施するものとなった。

ここでは、高齢者の方々の生活経験をもとに、まず、同世代の立場から、広くよきつながりを得る中で、たくましいおじいさん、おばあさん像を求めることとした。このことから、
 ①人の在りよう（生きる確かなもの）を見つめ、②地域に世代間のつながりを形成しつつ、
 ③市民間の育くみ合うつながりの形成から、生活の共同・協力となって、住みよい地域づくりにむけることを目標に、次のとおり実施した。

語らいの広場 本館コース

期 間 昭和56年6月24日（水）～11月11日（水）午前10時～正午 全10回

会 場 公民館

参加者 19人×10回＝190人

月 日	テ ー マ	内 容	備 考
6. 24	はじめに	語らいの広場について紹介、自己紹介 プログラムの作成について	話 し 合 い
7. 8	福生市について	現在の福生について感じていること こうありたいと思っていること	〃
7. 22	全 体 会	福生のこれまでと今後（現在私が思うこと）	石川 常 太 郎 氏 （ 前福生市長 ）
8. 12	戦前と戦後について	戦前の生活、地域について 戦後の生活、地域について	話 し 合 い
8. 26	税金について	やさしい税の話	持 田 力 氏 （ 税 理 士 ）
9. 9	全 体 会	最近の子供の様子 人生で心に残る出来事（聴取）	山 崎 茂 男 氏 （ 福生珠算学校長 ）
9. 30	世代間の交流	これからの子供の教育について 40才代までの生活について	交 流 話 し 合 い （ 婦人学級教室 ）
10. 21	禅について	禅の話し	服 部 照 親 氏 （ 千手院住職 ）
10. 28	全 体 会	自然と人間について	宮 岡 一 雄 氏 （ 明治大学教授 ）
11. 11	まとめと これから	〃 語らい ”をふりかえって これからの〃 語らい ”にむけて	話 し 合 い

語らいの広場 扶桑コース

期 間 昭和56年6月24日（水）～11月11日（水）午前10時～正午 全10回

会 場 扶桑会館（全体会・公民館）

参加者 15人×10回＝150人

月 日	テ ー マ	内 容	備 考
6. 24	はじめに	〃 語らいの広場 ”について紹介 ・自己紹介 ・中味の希望からプログラムの作成	話 し 合 い
7. 8	家庭形成について	良き家庭像とは（現代社会の中で）	〃
7. 22	全 体 会	福生のこれまでと今後（現在私が思うこと）	石川 常 太 郎 氏 （ 前福生市長 ）

月 日	テ ー マ	内 容	備 考
8. 12	近隣地区のつながりについて	・家庭、その内・外観 ・子どもの成長をめぐ るおとな(親) ・助言や援助の立場について	話 し 合 い
8. 26	中間の整理	・今後の運営方法について及び中味について ・私達の戦前、戦後の生活のあゆみ	話 し 合 い
9. 9	全 体 会	・最近の子供の様子 ・人生で心に残る出来事 (聴取)	山 崎 茂 男 氏 (福生珠算学校長)
9. 30	社会の中で	参加者質問から、現代社会のもつ課題について	田 村 利 一 氏 (前都議会議員)
10. 19	世代間の交流	—— 子育て期の母親層との交流から —— お互いの存在の活用から人格的なつながりへ	交 流 話 し 合 い (あじさいの会)
10. 28	全 体 会	自然と人間について	宮 岡 一 雄 氏 (明治大学教授)
11. 11	まとめと これから	全経過の感想と今後の語らいについて 以後の機会をもつことについて	話 し 合 い

語らいの広場 白梅コース

期 間 昭和56年6月24日(水)～11月19日(木)午前10時～正午 全11回

会 場 白梅分館(全体会・公民館)

参加者 21人×11回＝231人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 24	プログラムづくり	自己紹介、プログラム作成	
7. 8	心と体の健康について	私の健康法 栄養のバランス	影 山 愛 子 氏 (市健康センター)
7. 22	全 体 会	福生のこれまでと今後 (現在私が思うこと)	石 川 常 太 郎 氏 (前福生市長)
8. 12	郷土の文化財	郷土めぐり(熊川)	立 川 愛 雄 氏 (市文化財保護審議会)
8. 26	懇談会	これまでの"語らい"をふり返って	
9. 9	全 体 会	最近の子供の様子 人生で心に残る出来事(聴取)	山 崎 茂 男 氏 (福生珠算学校長)

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
9. 30	家庭、地域での私たちの位置と役割	家庭、地域で高齢者がどのような状況にあるか	冷 水 豊 氏 (都老人総合問題研究所)
10. 15	若い世代との交流	若い世代に伝えたいこと 若い人の気持、年よりの気持	ひ だ ま り
10. 28	全 体 会	自然と人間について	宮 岡 一 雄 氏 (明 治 大 学 教 授)
11. 11	これからの近隣地区のよきつながり	映画「豊かな高齢期」をみて、よきつながりについて考える	
11. 19	まとめ	語らいをふりかえって これからの語らいにむけて	

6 市民会館主催事業

1 目 的

会館は、市民の文化・芸術の拠点として、また豊かな人間性をはぐくむ場として、会館のもつ機能、設備を内容面で市民に還元してゆくことを目的としている。

その一環として、市民会館主催事業は、市民によりよい鑑賞の機会を提供し、生活の潤い、いこい、また文化、芸術の創造の契機となるよう行われる。それは、市民が鑑賞者として、
“すばらしいもの”を愛する心を、いつまでも持ち続け、会館が主催者として、市民の求める“すばらしいもの”を十分に検討し、それに対応するという相互のより高い調和を目的とし、開催する。

2 目 標

定着化したオーケストラコンサート、ポピュラーコンサート、落語鑑賞会、映画会等、幅広いジャンルからの企画により、多くの市民の参加を望んでいる。

また、主催事業の内容の充実とともに、催しを全市民に知ってもらうため、宣伝活動の徹底を心がける。

公演種目	日 時	会 場	入 場 料	入場者	出 演 者 ・ 内 容
落 語 鑑 賞 会	昭和56年 6月26日(金)	市民会館 小ホール	前売券 400円 当日券 450円	125人	柳家 〆治、古今亭 志ん太、 入船亭 扇好、林家 時蔵、 林家 正雀

公演種目	日 時	会 場	入 場 料	入場者	出 演 者 ・ 内 容
スターダスト スイングコン サート	昭和56年 12月12日(土)	市民会館 大ホール	ベアシート 3,000円 指定 1,800円	692人	鈴木 章治とリズムエース マーサ三宅 亀渕 友香
ふっさニュー イヤークンサ ート	昭和57年 1月24日(日)	市民会館 大ホール	指定 2,500円 自由 大人 1,800円 小人 1,000円	1,166人	指揮 尾高 忠明 歌と詩 島田 祐子 演奏 東京フィルハーモニー 交響楽団

市民名画劇場

上 映 作 品	上 映 日	上映回数及び入場者
クレイマークレイマー	5月30日(土)	午後・夜間 3回 703人
男はつらいよ	8月 1日(土)	午後・夜間 2回 225人
どですかでん	9月19日(土)	午後・夜間 2回 119人
ゆかいな仲間	11月 1日(日)	午後・夜間 2回 115人
理由なき反抗	11月28日(土)	午後・夜間 2回 166人
スケアクロウ	1月30日(土)	午後・夜間 2回 113人
未知との遭遇	3月27日(土)	午後・夜間 2回 314人

いずれも市民会館小ホール